

○事業所名	放課後等デイサービス あいりす			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日 ~ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数)	35
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日 ~ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	無駄のない充実した支援と療育。終日療育（来所から帰るまでに行う挨拶やルーティンワーク、マナーヤルールを順守する規範意識を育む）を心がけて1日を通してトータル的な療育となる様に支援を行っている。	1日を通して、生活・遊び・個別プログラム・集団プログラム・コミュニケーションプログラムといった多様なコンテンツを用意して常に療育的な視点に立ち恒常的に取り組んでいる。声掛けの仕方は「してください」的な言い回しではなく「次は何ですか？」などとして、自分で考えることを優先に支援している。	どのような手法が子ども達のよりよい支援や療育となるかを、今以上に職員一同の勉強会等を通じて高めていく。外部の講師などを招いての療育企画なども充実させたい。
2	年齢に相応しい支援体制の充実。6年生活動として中学生になる為の準備的な療育プログラムを実施している。また、中高生が社会的なスキルを学ぶように特別なプログラムを準備して外部とも大きく関わるイベントを充実させている（2025年度から更に強化・拡大できるよう準備済み）。	1年間の季節ごとに地域交流イベント（子どもフリーマーケット等）のイベントを開催して地域の方との交流を図っている。食・動物愛護・寄付活動・ボランティア活動等を外部と深く関わりながら協働して活動することで老若男女や世代の壁を越えた交流を実現させ学びの機会を増やしている。	外部ボランティアだけでなく、事業所が所有する畠などで農作業体験など自主的な活動を更に積極的に増やす。実際的なスキルの獲得を目指し、より実践に近い形の体験をシミュレーションしていく。
3	迅速な改革と問題解決の為の対応。事業所内の物理的な問題点や子どもの安全を最優先したレイアウトや、使用する備品等にも気を配っている。支援や療育する中で発生した問題点は即日対応・検討し、速やかな改善が行われるシステムがある。保護者からの要望や相談にも迅速な対応を行っている。	子どもが使うハサミやテーブカッターなどの保管場所や安全性を最優先した備品の購入や交換などを常に実施。テーブルや長机、フロアマットなどケガの帽子に最大限の配慮を行う。毎日問題点をミーティングで明らかにして即日改善している。	最新の情報を入手するために様々な分野での情報収集を図り、様々な実験的な取り組みを実践していく。事業所内で発生する問題に対処するだけでなく、問題が起きない事前の取り組みを会議等で話し合うことを増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者対応。保護者同士の交流会やペアレントトレーニングを充実させる。コロナ渦で消極的となった交流会や勉強会を今後は充実させたい。また、ペアレントトレーニングを充実させる。	コロナ渦で開催が消極的になったところから、まだ復帰できていないのが原因であり、保護者からもその様な要望が少なかったことから充実できていない。	事業所の職員の意識改革と保護者が参加意欲を感じるような企画を立てる。お茶会などの気軽な集まりで悩みを共有したり相互の交流を図ることで連携を強化したい。
2	事業所内のレイアウトや使い勝手。年齢が上がるにつれて、事業所内の支援ルームが時折手狭に感じる場合がある。パーテーションや活動場所の工夫をする。	事業所が開所した当時はあまり感じなかったが、全体に子どもの年齢も上がり、体格も大きくなり、活動のすみ分けが必要である。パソコンやタブレットの使用など、新しいニーズにこたえるべくスペースを確保する工夫が必要。	学習場所・工作など創作活動の場所・自由遊びの場所・静養室等の使い勝手を含め、子供の意見を丁寧に聞き取ることでその意見を支援ルームの使い勝手の良さにつなげたい。
3	緊急対策マニュアル等の周知。火事や地震などの自然災害時のマニュアルを保護者と共有することが充実していない。普段から避難訓練や防災についてのレクチャーをしているが、南海トラフ地震などを想定したリアルな学習を充実する。	最近になって充実したホームページを開設したことから、情報公開や保護者への様々な周知が遅れる要因にもなった。家庭への周知や家庭との連携が弱くなっていた。	あいりすだより（季刊のおたより）年4回発行を上手に使い告知する。ホームページ等にも保護者向けの告知ページなどのコンテンツを早急につくる。